

1

広域耕種農業法人における経営安定化条項

宮崎みどり製菓株式会社
営業部 五島照仁

2

農地中間管理機構とは

目標

○ 今後10年間で、担い手の農地利用が全農地の8割を占める農業構造を実現（農地の集積・集約化でコスト削減）

政策の展開方向

農地中間管理機構の整備・活用（法整備・予算措置・現場の話し合いをセットで推進）

農地中間管理機構（農地集積バンク）

耕種農業法人における経営安定と経営向上の条件は
「地力を把握し向上させる事」である。
⇒生産性向上が可能となる。

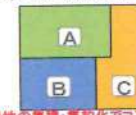
地域内の分散・錯綜した農地利用



農地の集約（イメージ）



担い手ごとに集約化した農地利用



農地の集積・集約化でコスト削減

3

地力はCEC(塩基交換容量／肥料の保持力)を測定し
判断されている。 ※農林水産省マニュアルに沿って測定

CEC(塩基交換容量／肥料の保持力)の数値の目安

培土 40

優良土壌 20



常に地力を把握し、改善する事で**経営の安定**に繋がる。

4

太陽ファーム

TAIYO FARM

お客様のニーズにあった、新鮮で安全な野菜をお届けします。



設立	2003年12月1日
所在地	宮崎県都城市高木町6226-5
資本金	2000万円
代表者	代表取締役 牧田 信良
従業員数	30名（平成19年8月現在）
取引銀行	宮崎銀行・都城信用金庫・JA都城
●株式会社マキタ運輸 宮崎県都城市高木町6226-5 TEL: 0986-27-5200 FAX: 0986-38-8366	

生産される野菜の殆どが加工用で、契約栽培がメイン

経営規模	●直営規模 ハウス 120a 露地 1000a ●契約規模 戸数 100戸 面積 120ha ●野菜加工 年間 約4,000t
------	---

5

第60回宮崎県畜産共進会【肉豚枝肉の部】



親地ボク



(農)萩原養豚生産組合

グランドチャンピオン受賞



6

当社製品を用いたニンニク(加工用)試験

目的：収穫量増加 生産性向上

圃場：(有)太陽ファーム ニンニク圃場(都城市高城町高木)

面積：90a

品種：上海嘉定種

植付日：平成29年11月

使用資材：ウットンバイオスター：WBS

100倍液を100ℓ/10a

収穫前 2回散布(平成30年3月27日・4月7日)

測定・収穫日：平成30年5月10日



7

平成30年4月11日

対照区

試験区

試験圃場(面積：90a)



WBS無散布

WBS2回散布

8

平成30年5月10日 測定(坪刈り)



圃場：(有)太陽ファーム ニンニク圃場(都城市高城町高木)

品種：上海嘉定種

面積：約90a

試験区：WBS100倍液を2回散布 100ℓ/10a 3/27, 4/7

		【単位：g】										【単位：%】			
	個数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	総重量	平均	偏差	変動係数
対照区	42	173.0	150.5	114.0	124.0	103.5	174.0	79.5	196.5	132.0	83.0	4,998	100.0	119.0	34.3
		102.0	128.0	93.0	125.0	112.0	155.0	77.0	76.5	94.0	99.0				
		153.0	172.0	94.0	94.0	140.0	115.0	165.0	53.0	135.0	136.0				
		116.0	112.0	117.0	96.5	108.0	68.0	46.0	118.0	110.0	100.5				

WFを施用して地力を上げる事が重要である

試験区	44	130.5	105.5	190.0	81.0	149.5	119.0	83.0	98.0	155.0	148.5	5,190	103.8	118.0	99.1	27.2	23.0
		143.0	158.0	114.0	113.5	111.0	61.0	138.0	135.5	109.0	146.0						
		102.5	86.0	90.5	133.5	106.5	147.0	88.0	100.5	138.0	109.5						
		107.0	86.0	137.5	78.0												

9

当社製品を用いた生姜(加工用)試験

目的：収穫量増加
地力増進と生産性向上(当社製品を併用した相乗効果)

圃場：(有)太陽ファーム 生姜圃場(都城市志和池地区)

面積：150a

植付日：平成30年4月16日～

使用資材：

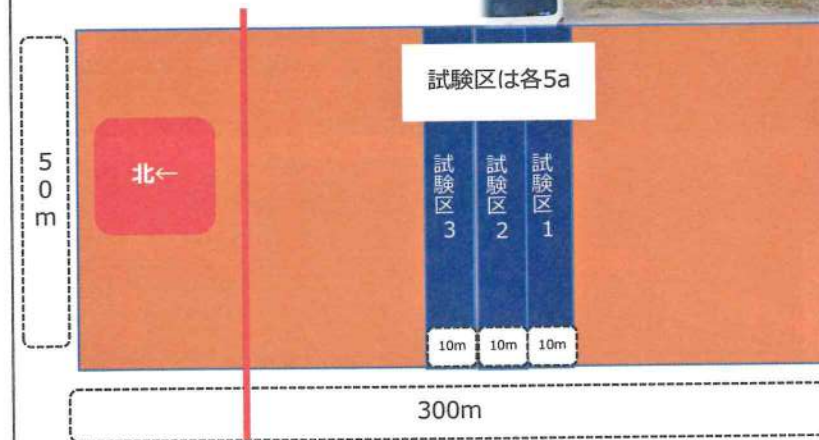
- ①ウットンファイバー：WF
- ②サンネッカE：SE
- ③ウットンバイオスター：WBS



測定・収穫日：平成30年11月上旬(坪刈り)

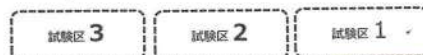
10

試験圃場(面積：150a)



11

試験区1・2・3(面積：各5a)



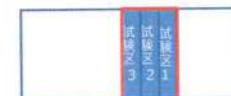
9/15

WBS
(100倍液)
100ℓ/10a



12

平成30年4月11日(植付前)



②試験区1～3
SEを各区100kg施用。



13

③試験区 1～3

WBS 50倍希釈液を各区100ℓ 散布。



※試験区 1 は、WBS をSE やWFに吸着させ施用。

施用後、圃場全体をトラクターにて耕耘し、翌日より生姜を植え付けた。



14

平成30年6月16日 (試験区 2 WF施用)

乾燥防止・雑草予防を目的として、
根元を中心にWFを300kg施用。その後土寄せ。

平成30年6月27日 WBS100倍液を試験区1～3に散布



15

平成30年9月4日 圃場確認

試験区 1 (5a)・・・植付前にWF・SE・
WBSを施用

16

試験区 1 (5a)・・・植付前にWF・SE・
WBSを施用

「葉の照りが最高で、土が以前よりも柔らかい」



17

試験区 2 (5a)・・・土寄せ時にWFを施用



「茎が太く密度がぎっしり。葉先の枯れが少ない」

18

試験区 3 (5a)・・・WFの施用なし



19

対照区・・・他社資材(有機土壌改良材)を
根元に施用。

20

試験区 2
(土寄せ時にWFを施用)対照区
(他社資材)

21

試験区 1 (5a)・・・植付前にWF・SE・
WBSを施用



「一部の雑草の種類が昨年と違う」
土質が変わってきた証拠⇒地力が向上している。



22

平成30年10月30日 試し掘り



23



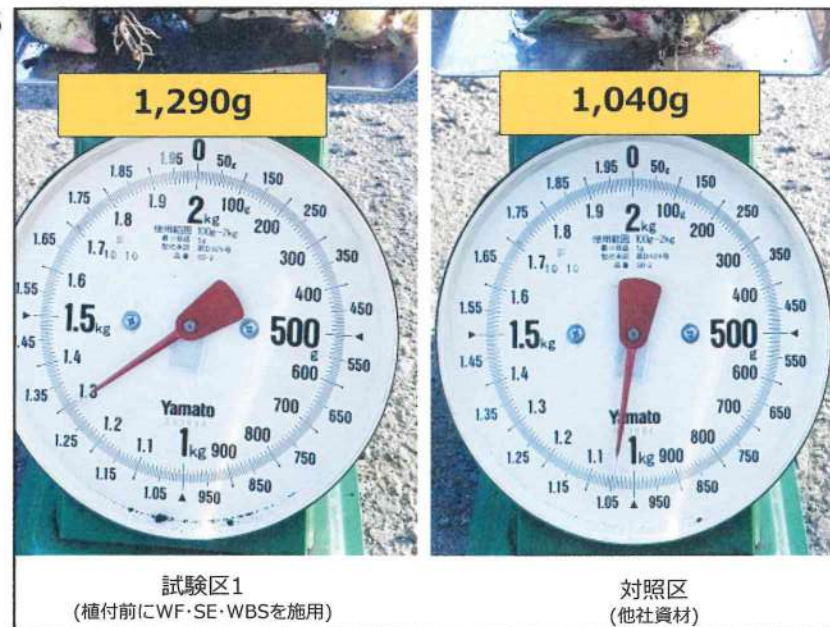
24



25



26



27

(測定結果)

11月上旬…測定(収穫)

坪刈り 重量測定
分析 硝酸値測定
酸化還元電位測定(抗酸化力)等

28

まとめ

耕作放棄地や契約農場の土質は安定していない、一定ではない。

耕作地は常に森林環境に近づける必要がある。

⇒CECを測定し土壌の安定化を図る。

リグニンが低分子化されているウットンファイバーを施用し、併せて微生物が常時生存可能な環境を擁するサンネツカEを施用する(地力増進)。

⇒ウットンバイオスターで生産性の向上

⇒経営の安定化に寄与



(有)太陽ファームとの今後の取り組み

小松菜・キャベツ等での当社資材を用いた試験実施

今後の展開

- ・ 太陽ファーム・観音池パークと当社の3社による更なる連携強化。
- ・ NRやWF入り畜糞を太陽ファームや他の耕種農業法人で使えるように
⇒循環型農業の確立

ご清聴ありがとうございました。

